

沖島南の資源保護活動水域におけるシジミ成員の生息密度の推移

孝橋 賢一・佐野 聡哉・井戸 本純一

1. 目 的

琵琶湖最大のシジミ漁場である沖島南漁場においては、新たな資源保護の取り組みとして保護区が設定されている。本水域では漁場環境の改善のため湖底耕耘やヒメタニシの駆除行われ、さらに2020年以降は親貝の移植保護や0.3mm稚貝の放流が行われている。そこで本水域における成員の生息状況を調査し、これら取り組みの評価を行うための基礎データとした。

2. 方 法

貝殻の伸長が最も盛んな8月～10月を挟む6月および11月において、沖島南の保護区域の内外に設けたそれぞれ7(6月)、18(11月)の調査地点(図1)において、別頁で示した資源概況調査と同様な実採捕調査を行い、殻長14mm以上の個体の生息状況を調査した。

3. 結 果

11月調査における調査地点別の生息密度(漁獲効率を0.5と仮定)を図2に示した。成員の生息密度は保護区内の南東角のC3で10.5個/㎡と最も高く、次いで南側のC5が7.5個/㎡となり、保護区の南側から南東で生息密度が高かった。とくに殻長14mm～18mmの小型が多かった。稚貝の放流地点より南東側で密度が高く、放流場所から南東方向に分散しているものと思われた。

11月の調査地点のうち、6月にも調査した7地点(C1-C3, C5およびD1-D3)における6月から11月までの殻長別の生息密度の変化を図3に示した。

6月から11月にかけて保護区の外側にあるD2の生息密度は6月が1.1個/㎡であったものが11月には0.9個/㎡とやや減少したが、他の調査地点では保護区の内、外に関わらず増加しており、とくに放流地点の南から南東側では6月にはC3、C5がそれぞれ3.9個/㎡、1.2個/㎡であったが、11月には10.5

個/㎡、7.5個/㎡と2.5～6.3倍に増加していた。

一方、保護区外の南側にあるD3においても11月には0.7個/㎡から3.4個/㎡と4.9倍に増加しており、保護区の外側への分散もうかがえた。

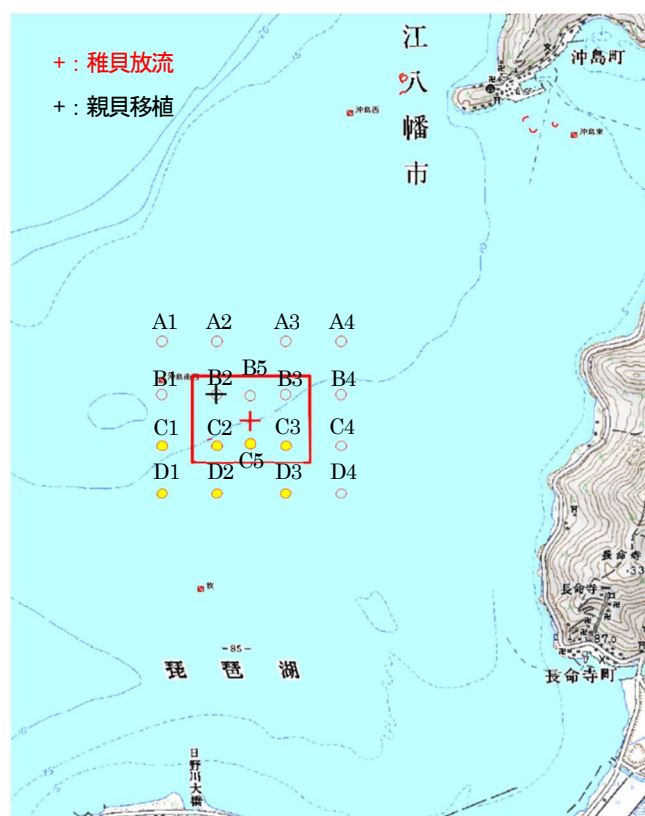


図1 沖島南漁場の保護区における調査地点
(●: 6月、○: 11月)

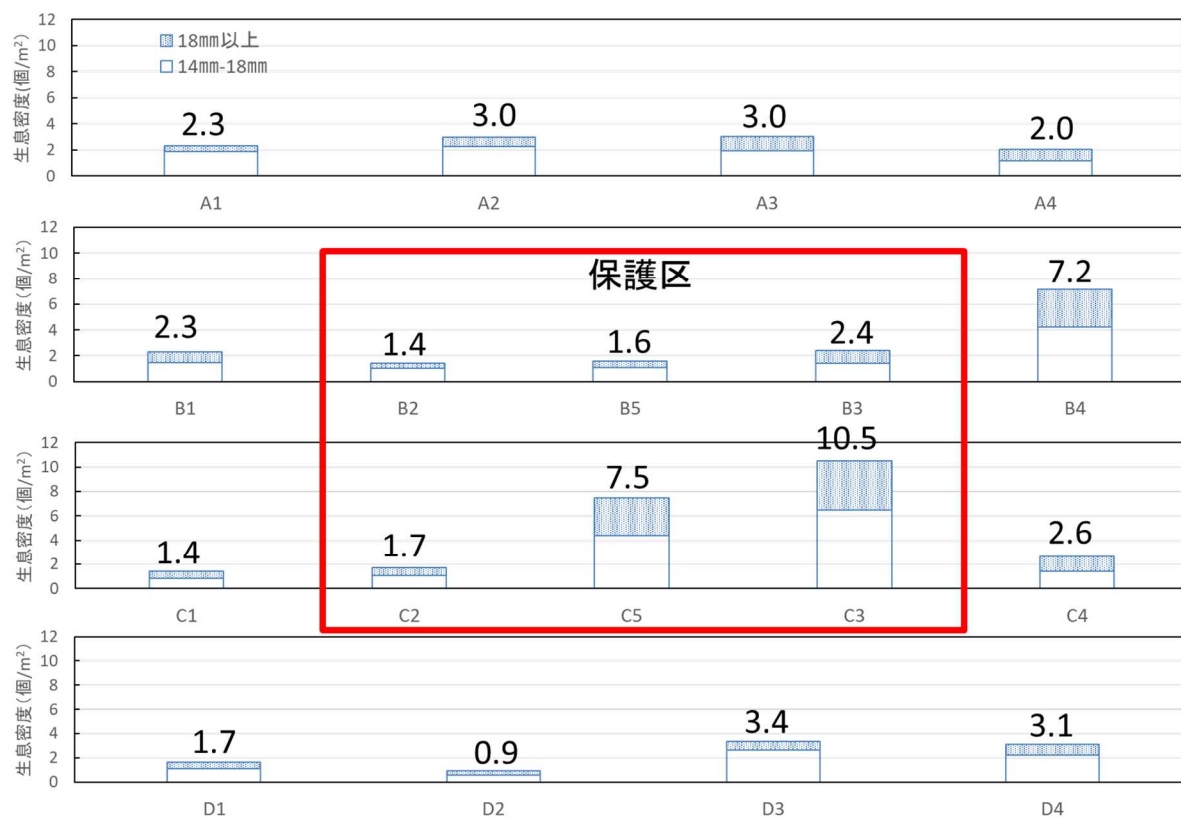


図2 沖島南漁場の保護区における成員(14mm以上)生息密度の分布(11月)

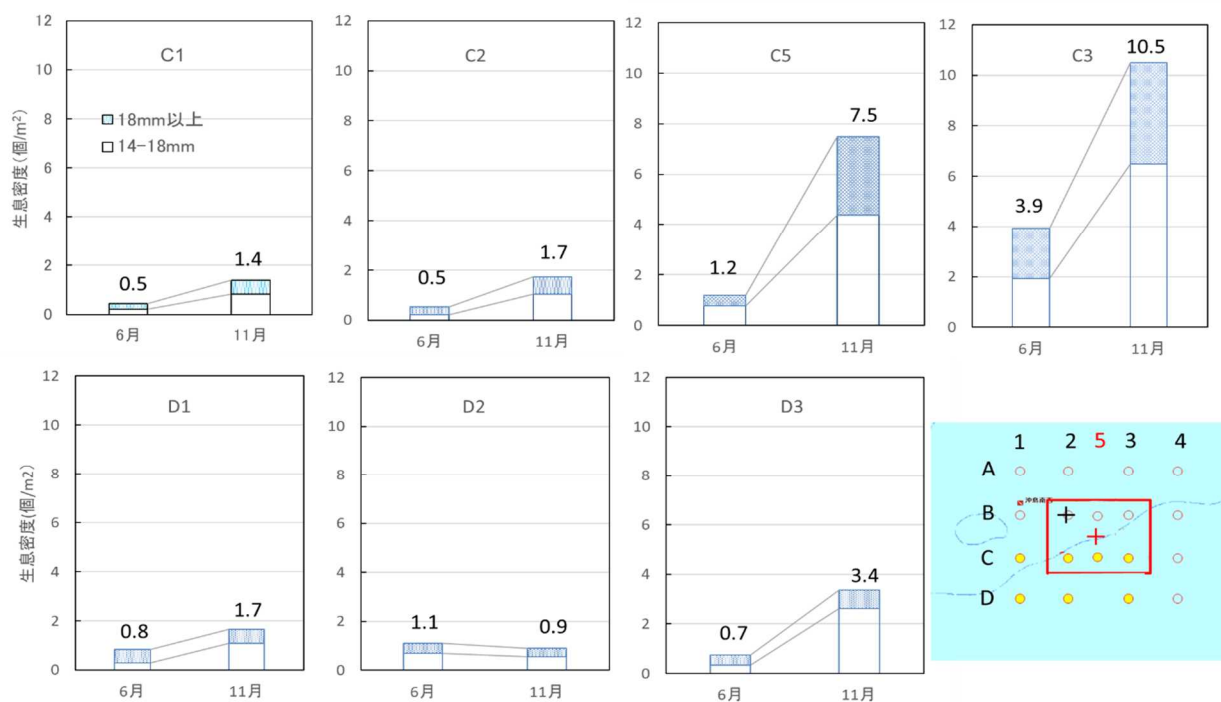


図3 6月から11月にかけての沖島南漁場の保護区における成員(14mm以上)生息密度の変動